沖井委員（自民議連）

平成 31 年２月 25 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）個別状況に対応したカリキュラムの在り方研究について

個別学習は，既に民間学習塾でかなり浸透しており，一斉指導を補う上で有効なものであるが，相当な人手や手間がかかるものである。その点，教師不足や多忙が深刻化している本県においては，全県的な展開はかなり困難を極め，学校間の不均衡などを招きかねないのが現実ではないかと思われる。

まだ研究前の時点ではあるが，現在の広島県のそうした問題を踏まえ，どのように個別学習カリキュラムの研究を展開していこうとしているのか，教育長の考えを伺う。

（答）

来年度予定しております「個別の状況に対応したカリキュラムの在り方についての研究」におきましては，一人の子供を一人の教師が指導するといった一対一の指導を想定した研究ではなく，能力や意欲等の異なる子供達が，年齢の異なる多様な他者と協働しつつ，自分なりの方法や進度で自立的に学習を進めるためのカリキュラムの研究を進めることとしております。

このカリキュラムの在り方を研究するうえで，イエナプラン教育は，一つの参考になるものであると考えております。

具体的には，大学等の学識経験者や学校関係者等の指導・助言を受けるなど，我が国の学習指導要領の下（もと）で，教材や授業の進め方，時間割の編成，効率的な指導体制などについて研究を進めてまいります。